

授 業 科 目 名	教育実習Ⅱ (幼稚園)	教 員 名	城戸 佐智子 渡邊 耕二	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
					保育士	
授 業 形 態	実習	担当形態	単独		こども音楽療育士	
科 目 番 号	JIS304	配当年次	3年後期	卒 業 要 件	小幼コース	
単 位 数	2単位				幼保コース	
科 目	教育実践に関する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	教育実習					
一 般 目 標	教育実習は、大学で学修した理論と学校現場での実践を統合する自主的・能動的かつ総合的な活動である。授業（教育・保育）を中心とする幼稚園教育活動全体の実践活動を行うことはもとより、幼稚園運営や教員（保育者）の職務の実態にも触れることによって、より実践的な指導力を育成する。 (1) 観察及び参加並びに教育実習園の理解に関する事項 幼児や環境構成等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解する。 (2) 保育内容の指導及び学級経営に関する事項 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、教育実習を通して体験的に理解する。					
到 達 目 標	(1) 観察及び参加並びに教育実習園の理解に関する事項 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する活動において視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 3) 教育実習園の経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。 (2) 保育内容の指導及び学級経営に関する事項 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。 5) 保護者や地域との連携の意義について理解できる。					
授 業 の 概 要	2週間の幼稚園での教育実習を通し、更に幼児理解を深め、保育内容・保育環境・保育者支援等、幼稚園教諭の職務をより深く学ぶ。また保育指導案の作成、保育体験を重ねることで、より適切な保育方法を身に付け、実践的な指導力を深める。教育実習Ⅱは保育を目指す学生において、さらなる実践力を付けるための応用的実習である。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本実習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」「7. 基礎的な英会話及び音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	主に観察実習・参加実習・研究保育とする。					

	教育実習Ⅰでの経験をもとに、下記の視点を意識しながら10日間の教育実習を行う。 1. 幼児の姿、幼児と教諭との関わりを観察から、教諭の保育の意図を理解する。 2. 環境整備、環境構成、教材づくりなど教諭の補助を行いながら、幼稚園教育について理解する。 3. 実習日誌を作成し、幼稚園教育の現実を把握する視点について理解する。 4. 指導計画案の作成を通して、幼児の姿と発達に応じたねらい、内容の設定の仕方など、保育計画の立て方について理解する。また、実践し、反省会等を通して自分の保育について振り返る。 5. 日々の幼児との関わりから子ども理解を深め、教育実践力を向上させる。 6. 食事の指導を通して、食育の実践について学ぶ。 7. 日々の送迎や行事に積極的に参加し、保護者・地域との連携について理解する。 8. 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るための工夫を幼児の生活から捉え、理解する。 9. 幼稚園実習全体を通して、幼稚園の責務、実習園が行なっている子育て支援について学ぶ。 10. 幼稚園実習全体の反省を通して、保育者を目指すものとして取り組むべき自分の課題を明確にする。 実習園の配置計画は学生の希望に基づき、大学から依頼して内諾を得る。また、大学と実習園とが連携協力して大学教員が直接訪問し、学生の指導に当たる。
学 生 に 対 す る 評 価	評価の基準：実習態度・観察・理解・援助・保育指導・記録・出席の項目について評価する。 評価の方法：実習園評価（50%）・実習日誌及び保育参観教員による評価（50%）
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：実習指導の内容を踏まえ、各自の表現力・実践力を高めておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにしておく。
テ キ ス ト	資料を随時配布する。
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	資料を随時配布する。
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	教育実習Ⅰの反省をもとに、さらなる教育実践力の向上を目指して欲しい。そのためにも、幼児や教諭と積極的に関わりながら幼稚園教育の理解に努めて欲しい。また、将来を見据え、保育者になるために取り組むべき課題を明確にできるよう、しっかり実習に取り組んで欲しい。
オフィシアワー	城戸：毎週木曜日 15:00～16:00 渡邊：毎週金曜日 9:00～11:00